

第5回 第二期武蔵野市コミュニティ評価委員会

■日 時：平成17年5月24日（火）19:00～21:00

■会 場：市役所6階603会議室

■出席委員：玉野委員長、小原副委員長、荒川委員、原委員、皆川委員、田中委員、
檜山委員

■武蔵野市：事務局 笹井市民活動センター所長 ほか3名

1. 評価方法について

*評価方法の項目案を基に討議を行った。

【委員長】評価方法の観点の割り出しの作業に入りたい。「運営の参加」「企画の革新性」「利用の配慮」、「決定の公開」の中に「法規の遵守」も含め4項目とし、それぞれについて観点を5つくらい具体的にそろえられないだろうかというのが課題であった。4つの区分で自己点検していき、観点として入れておかなければならない点などを出していただきたい。

【委員】項目の決め方だが、いろいろなコミュニティがあり、方向性があると思うので、必須の項目であるという項目に限った方がいいのではないか。

【委員長】協議会によってこの辺は手厚くやっているけれど、この辺は薄いとわかるような項目をそろえることが重要だと思う。必須の項目と言えるかわからないが、網羅的にきちんとバランスよく行っていればよいという項目をそろえるのがいい。

【委員】例えば、理想的なコミュニティを見た時に、何段階かの評価方法をとる場合、すべてAの評価がよいという評価なのか、逆に偏っていても、「力を入れている」「力を入れていない」ところがあってもいいのだけれども、ここでCの評価があるということは、そこには力が入っていないことになると思う。評価はコミュニティの調査ということなのか、それとも評価項目を考え、守ることによって、よりよいコミセンになるという方を目指すのか。それによって違ってくると思う。

【委員長】活用の仕方としては、回収して、結果を見て、懇談会又は交流会をやることになるだろう。その時に、協議会ごとに力が入っている項目がわかった方が、自分たちの活動をとらえ直していく上ではいいと思う。そのため、メリハリがはっきり出るような項目をそろえた方がいいのか、それとも力の入れ具合がわかる項目がいいのか慎重に考えたい。

【委員】本当に評価しなくてはならないのは、市の補助金で活動している以上、公平性や透明性ということや補助金の使い方などが公正であるか、その法規が守られているかという部分は評価されるべきだと思う。また、自分たちは何を目指しているのかということも表せればと思う。企画、活動に関しては、今年度の目標や何を核にして活動をしてやるかを表せるといいと思う。

【委員長】具体的に、このことについては聞いた方がいいのではというのを挙げていって

いただきたい。

【委員】ネットワークという分野は1項目挙げてもいいと思う。地域によって行事の組み方や地域の人たちとの係わり方が違う。地域は総合的で、コミュニティだけではないので、他の団体とのネットワークや協力関係がどうかという項目があると、それらが足りないのか、別な形で補完されているのかというのがわかっていいと思う。

【委員長】それは非常に重要な点で、視察をしているとそういうのがあるところとないところがはっきり成果で見えてくる。例えば、「運営の参画」では他団体から代表を出してもらったりしているかどうか、「企画の革新性」では共催の企画を持っているか、「利用の配慮」になると子ども関係の団体の利用が多いか少ないかなど分けて聞いていって、それぞれ評価していくのがいい。地域の他団体との関連というのは非常に重要な観点になると思うので、具体的にどういう団体を網羅しておけばよいか挙げていただけないか。

*具体的に団体を挙げる

地域社協、青少協、PTA、学校、幼稚園、保育園、大学、大学のサークル、防犯協会、警察の駐在所、消防署の出張所、0123、福祉施設などの公的な機関

【副委員長】蒸し返すようなことを聞くが、諸団体や学校等との関係はどうなっているか、あるいは密接な関係があるかと聞くのは「関係のあるべし」「密接にするべし」というあるべきコミュニティを前提にしたような質問になりかねない。

【委員】コミセンによって、地域や団体との係わり方がそれぞれ違うと思う。コミュニティは地域の拠点という考え方だとしたら、地域のいろんな方たちと関係を持っていかなくてはならないということはあるけれども、その比重というのは。

【委員】「べき論」ではないと思う。実態を浮かび上げらせるだけだったら、それでいいのだが。

【副委員長】「べき」と言うと強いけれど、それは活動の「テーマ」とか「目的」だと思う。こういう活動を重視しているかしていないかというような聞き方もある程度可能だと思う。例えば、子供の問題を非常に考えたいと思うかどうか、高齢者の問題、リサイクルの問題を考えるなどという挙げ方だと可能だと思う。

【委員】それともう一つだが、項目に丸をつけたり例示したことで、自分たちが気がついていなかったことに、新たに気がつけばすごくいいと思う。

【委員】例えば、ここと関係を持っていると回答した後に、そこの団体とはこういうふうな係わり合いを持っていると記入する箇所があると何となく見えるところはある。

【委員】第一期の質問項目は、手続き論に限り、しかも、比較的、一般的、抽象的な聞き方をしていて、武蔵野市のコミュニティ行政のあり方として「コミュニティかくあるべし」と前提にしていないのでこういうふうになるのかなと思う。仮に、具体的な値を出していく聞き方だと「かくあるべし論」につながるような気もする。

【委員長】例えば、活動の「目的」「テーマ」を挙げて、このことについてどれぐらいその協議会が重視しているかというのは、即「べき論」にはならないだろう。その協議会の特徴を示すものになって、それを他の協議会と比べた時に、「こんなことをやっているところもあるのだ」「うちはこういうことあまり考えなかった」というのは一つのきっかけ

になっていいと思う。「手続き」だけではなく、「目的」「テーマ」という点では、ある程度項目として出してもいいと思う。

そう考えると、同じように具体的に知りたいのだが、地域問題というのはリサイクルや子どもの問題の他にどのようなものがあるか。

【委員】 高齢者問題、防犯の問題。

【委員】 地域問題を7、8個列挙して、その他というのをくっつけると、いろんな取り組みがされているのが案外見えてくるのではないか。

【委員長】 テーマの設定では、地域の問題に当たるようなテーマを中心にするというのと、地域の人と交流を図るような活動、あるいは文化活動などのサークルが自由に活動できることを重視しているところもあるので、そういう団体を並べ、そのバランスがどうかとわかるようにしておくのは一つの工夫としてあり得る。

【委員】 手続きに関することだが、利用者あるいは住民のニーズや意見等をどのように運営や企画に反映しているのか何か具体的に見えるようなものがあれば知りたい。

【委員長】 利用者懇談会の意見や受付に関する苦情等があると思う。この1年間でもいいので、何か問題になったようなことがあったか、それを適切に解決できたと思うか、あるいは解決できなかったというような項目だと思う。受付の問題と利用者の問題はどこかで何かを入れないといけないと思う。それと同じように、利用率や利用のされ具合をチェックする項目や運営委員にもあてはまるが、新しく加わってくれた方がこの1年間でどれぐらいいたか、そのためにどのような努力をしたかなど人的な新陳代謝に関する項目も要るのかなと思う。他はいかがか。

【委員】 広報紙や住民総会、利用者懇談会の決定事項を住民に周知したか。

【委員長】 地域にコミュニティのことを知らせる活動としては、広報紙をやっているのはわかるのだが、他にはどのような活動があるか。

【委員】 ホームページ、チラシ、ポスター掲示、市報。広報活動というのはものすごく大変だが、コミセンを利用する方だけのものではないと判断をしているコミュニティ協議会にとっては、住民全部が対象だとなれば、広報活動を嫌でもやらざるを得ない。

【委員】 広報紙等を全戸配っているかどうか。

【委員】 「すべきである」というような結論にはならない方がいい。広報の場合には、広報紙だけではなくて、いろいろな手段を挙げてもらって、どれが一番使っているかというような聞き方がいいと思う。掲示板のところもあるだろうし、回覧のところもあるだろう。

【事務局】 コミュニティ協議会の広報活動として、対象地域のポスティングを16年度は何回やっているか。年間4回のところもあれば、12回のところもある。それがいいか悪いかは別としても最もわかりやすいかなと思う。

【委員】 地域によっては、ポスティングではない方法もある。広報手段としていろいろな方法がある。

【委員】 広報紙がどうだということではなく、住民にコミュニティ協議会の動きがどのように周知されているかという聞き方がいいのではないか。

【委員長】今日出た観点を、意見交換会を踏まえて少し検討し、次回の委員会で提案していきたい。

【委員】「新任の委員に教育などを行い円滑に仲間入りを果たせたか」という点だが。

【委員】窓口や利用者との対応という点で、新しく運営委員になった方がすんなりと入っているかということである。教育というと大げさで言葉にはこだわらないが、ある程度、実態を説明したりしないといけないと思う。また、新しく入った人が足りないようだということや入った人がどのように満足できているかということを考えている。

【委員長】まだ何かありましたら。

【委員】予算の使い方についてはもう少しきちんと聞いていただきたい。お金の使い方自分たちの活動を見直す機会でもあるし、これは市が補助金を出しているので、評価していいところではないか。

【委員】お金の使い方を確認するのは難しい。例えば、領収書がきちんとあったというようなレベルの話ではないのか。

【委員】そういうことではない。立てた事業計画に対してどれだけ執行できたか。できなかったとすれば、何が原因だったかと聞かれれば答えざるを得ないと思う。

【委員長】それは確認しなければならない項目なので、少し工夫しなければならないと思う。誰が見ても問題がないようにやっていっているか、ある事情があって問題が出た場合はどこに問題があると思うかという形で少し入れることは可能ではないか。

【委員】そういうことは意識しながらやらなければいけないなと感じている。公費で買った備品等は地域の物だという意識を運営委員も住民も持った方がいいと思い、貸し出せる物は貸し出している。そのかわり「大事に使ってください」と一言かけている。そういうことが起こってこないと公費で買った備品の活用にならないと思う。

【委員】特に採算性である。その分市民にバックされているかどうか、効果が出ているかどうか。

【委員長】要するに、ある種の備品の購入に対して予算上の決定が適切に行われて、効果が出たかということを入れるのは可能だと思う。例えば、古くなった備品を換えようという合意ができ、その結果、使う人が多くなったとか使いやすくなったなどという評価である。

【委員】それは総会で決算報告をする時に、出席者との間では行っているだろう。あとは広報紙で報告するぐらいなので、そのぐらいの緊張感があった方がいいと思う。

【委員長】それでは、かなり観点が出ているので、あとは事務的にまとめさせていただくということで進めさせてもらいたい。

2. コミュニティ協議会運営委員との意見交換会について

【委員長】コミュニティ協議会の運営委員との意見交換会は1回で、16協議会が一堂に会して、説明の上、意見交換をする形態だったかと思う。

当日の具体的な進め方だが、「第一期コミュニティ評価に関する検証アンケート調査抜粋」に基づいて行う。要点は、「評価の目的と指針」はほぼ認められていた、「観点到

ついて」もほぼこういった項目で行ってよろしいだろうという結果が出ている。評価活動そのものがかなり負担だったので、今回は今日検討しているように、チェック項目を一つ一つ確認していくと全体像がわかって、他の協議会と比べて自分のところの協議会の特徴がわかったり、弱いところが見えたり、いいところが見えたりというものがないだろうか検討中である。それを8月に配付し、運営委員会で一つ一つ意見交換しながら書いていただきたい。それを踏まえ、全体として、チェックしながら気がついたことやこの機会にアピールしたいこと等自由に書いていただく部分がある形式を考えていると私の方から簡単に説明したい。30分から40分ぐらいでこちらの説明は終えて、1時間ちょっとぐらいを意見交換という形が望ましいのではないかと。趣旨としては、評価方法についていろいろな意見を率直に出していただく中で、こちらの趣旨を理解していただく。協議会によってはいろいろな意見が出ると思うが、それについてはぜひ意見交換会の中で、「いや、そうではないのでは」「こういう趣旨ではないか」等と確認していけることが一番理想的である。1時間ちょっとぐらいの討議時間で言いたいことを言っていただき、理解を深める。当日はそういう形で進めることになると思うがよろしいか。

【事務局】目的は、「第一期の評価の検証」と「第二期評価に向けて今、こういう方向で検討しているけれど、皆さんどうでしょうか」というところを中心に議論していただく。

【委員長】それで一定の了解に達するというのが目的である。第一期を行っての大きな成果は、評価についての抵抗感や誤解がいろいろあったが、こういう評価でこういうふうにして自分たちでやっていることが、自分たち以外のところで何らかの評価を受ける機会を得るということは、まんざら悪くもないというのが一つわかったことだと思う。

【委員】第一期の評価は、各コミセンの活動に対して否定はしていないので、みんながそれを素直に受けとめて、「こういう形ならば自分たちも考えていこう」となったのでは。それがよかったのではないかと。

【委員長】次回の意見交換会は、アンケートを見てある線では合意ができたというところが見られるので、これを確認していただいて、それで第二期の評価にどのようにつなげていくかというところで終わればと思っている。

3. 意見交換会の集合時間等

6月29日（水）

打合せ … 18:30～ 商工会館5階・第2会議室

意見交換会 … 19:00～ 商工会館4階・市民会議室

4. 次回の日程

7月4日（月）19:00～